

徳島大学病院で受けられる肥満手術についてのご紹介

肥満とは？

「肥満」とは太っている状態であって、疾病を意味するものではありません。肥満であるかどうかは体脂肪量によりますが、体脂肪量をはかる簡便な方法が無いので、指標として **BMI (Body Mass Index)** が世界的に広く用いられています。BMI とは体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m) で表される肥満の指標の一種であり、**日本では BMI 25 以上を肥満としています。**これは日本肥満学会が定義した基準で、日本人は BMI 25 を超えたあたりから、耐糖能障害・脂質異常症・高血圧といった合併症の発症頻度が高まることが理由です。

一方、「肥満症」とは肥満に起因、関連する健康障害を有するか、そうした健康障害が予測される内臓脂肪が過剰に蓄積した場合で、減量治療を必要とする状態のことです。肥満は疾患ではありませんが、肥満症は疾患であり、医学的に治療が必要となります。

肥満手術の適応

当院で行っております肥満手術、腹腔鏡下スリーブ状胃切除の適応ですが、**6 か月以上の内科的治療を行っても十分な効果が得られない BMI 35 以上であることに加え、糖尿病、脂質異常症、高血圧もしくは睡眠時無呼吸症候群のうち1つ以上を持病にもっていることが条件となります。**

当院では複数科・多職種による会議を行い、患者さんごとに手術適応があるかどうかを決定しています。

当院で行うことが可能な肥満手術

当院では、**日本で最も施行されている術式、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術**を保険診療で受けることが可能です（図 1, 2）。さらに、内科的治療抵抗性の糖尿病を合併する肥満症の患者さんには、2018年1月より**先進医療として腹腔鏡下スリーブバイパス術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術）**が認められました。

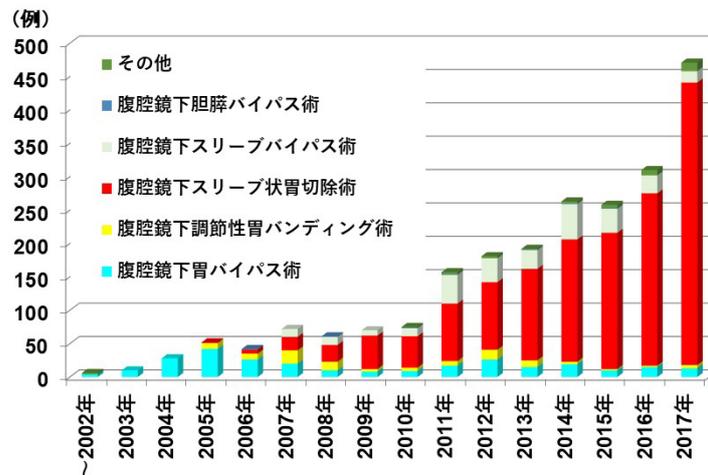
図1

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術



図2

日本における肥満手術



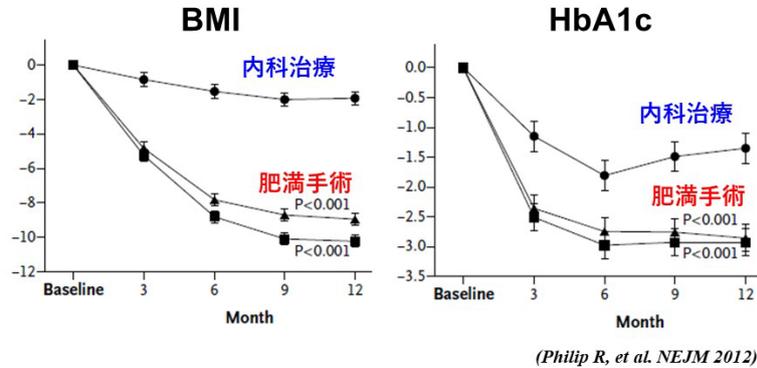
手術による効果

腹腔鏡下スリーブ状胃切除後は、**50～70%の超過体重減少率(%EWL)**が得られると報告されています。ここで超過体重減少率とは、 $\text{体重減少量} \div \text{超過分の体重 (現体重 - 理想体重)} \times 100$ (理想体重は、BMIが22で計算)で表されます。

さらに、腹腔鏡下スリーブ状胃切除には**糖尿病・高血圧・脂質代謝異常・睡眠時無呼吸症候群**などの肥満に関連した疾患も**改善**することが報告されています (図3)。

図3

肥満手術の効果



術後の生活について

術後、胃がかなり縮小しますので、食べ方の工夫が必要です。より減量効果を高め、栄養障害を起こさないようにするために、**外科医、内科医とともに栄養士も含めたサポートをしていきます。**

ご不明な点がある場合やなかなか治療に踏み出せない場合は、まずは外来受診をお勧めします。すぐに手術となることはありませんので、疑問や不安を取り除き、十分にお考えいただき、納得した上で、我々とともに治療を進めていきましょう。

患者様にご理解いただきたいこと

楽しんで痩せたいと考えている方は手術をお受けすることはできません。なぜなら患者さんによっては食べられる量が徐々に増えて結局元に戻ってしまう「リバウンド」が起こることがあるからです。従って術後も食事制限を守り、運動療法等を続ける努力が何よりも重要です。

また**当院受診後、すぐに手術を受けられるわけではありません。**まずはさまざまな検査を受け、内科・外科をはじめとする複数の診療科での診察の後、教育・減量入院等を経て手術を受けるという流れになります（基本的には半年程度かかります）。**さらに肥満症治療チームにより不適と判断された方については手術をお受けすることができない場合があります。**

当院で治療を受けるにあたり、患者様に守っていただきたいこと

- ・術前～術後の定期的な外来通院（栄養指導も含めて）
- ・禁煙
- ・主治医あるいは担当医との信頼関係を築くこと

担当医師

柏原秀也、吉川幸造